

菓子職人への道 障害者踏み出す

中央区で修了式

障害のある人を菓子職人（パティシエ）として育てるプロジェクト「神戸スウィーツ・コンソーシアム」の修了式・成果発表会が5日、神戸市中央区のホテルで開かれ、受講生が講習で学んだ菓子やパンなどを披露した。

コンソーシアムは、障害者の自立や就労につなげようと、社会福祉法人「プロッ



プ・ステーション」（神戸市東灘区）が日清製粉などの協力を得て2008年から始めた。昨年までに神戸などで約50人が受講し、今年

は6月から月1回、神戸のほか、愛知、岡山両県でも映像配信で講習会を開いた。

修了式では、今年の受講生18人のうち出席した9人が講師から修了証書を受け取った。写真。その後、成果発表として自作のケー

キやパンなどを出席者に振る舞った。

成果発表の審査でロールパンが最優秀賞に選ばれた藤株和正さん（28）（岡山県倉敷市）は「講習ではパン生地作り方が勉強になった。作るのに何度も失敗したので、うれしい」と笑顔を見せた。同法人の竹中ナミ理事長は「来年は東日本大震災の被災地でも講習会を開きたい」と話した。